

職工等は路上に立寄り、七時迄承に九時迄西牧氏は二一四番西折留會を組織し、職工等は
たが終局工場として日最善の處置を待たせしむる旨に結出したので職工は職費を拂
けて止生町大正産に引揚げて大會を開き協議した。
尚三庄工場も當日同く臨時休業の指示をしたので四百餘の職工は日本労働
總同盟三庄支部に引揚げ比較的静謐に解決を待たせてゐる。因島分署では兩一
を兼り尾道署より十五名、呉署より廿名の警備官の來長を待て警戒中である。

五日 大阪朝日新聞記事

大阪鐵工所 因島工場罷工

廣島縣細調郡止生町大阪鐵工所因島工場に勞働爭議勃發し二十一日は急業
の状態であつたが二十三日に至り十餘名の職工は全く同盟罷工に出て職工側に
日本労働總同盟大阪聯合會その他の労働團體に打電して應援を求めむるに
至つた。勞所の同會社三庄工場も數百名の職工が同一行動に出て後かすむる氣

配となりたので廣島縣警視察部へは二十三日夜福山尾道兩署より巡查五十餘名
を派遣し更に二十三日には巡查教習所及び縣下各警視察署より五十餘名を増派
して龍宮戒の任に當らしめ一方神戸に出張中であつた馬淵縣高等課長を呼び戻
し因島に出張せしめこれが指揮に當らしむるなど大騒ぎである。

爭議の原因は十餘名の職工が過日來六名の委員を選んで日給一月五十錢以内
は三割、一月五十錢以上は二割、二月以上は一割の賃銀増給方を交渉中のところ
二十一日午後に至り上阪中の箕子工場長の意嚮だとて不景氣の故を以てこの要
求を断然拒絶し全職工に休業を言渡したのに起因するので三庄工場も同
様要求して共に二十三日より休業するに至つたものである。

五月二十四日 大阪毎日新聞記事

休業撤回を拒絶 職工側大會を開き持久戦に入る

大阪鐵工所因島工場の勞働爭議は廿三日午前工場が發表した臨時休業の撤回